

# 「ブロッコリー害虫に対する 育苗トレイ処理剤による防除の実用性」

○佐古 勇・谷口美保・松谷 守\*（鳥取県西部総合事務所農林局・  
\* JA 鳥取西部農協）

鳥取県ではセル成型育苗トレイ（128 穴または 200 穴）を用いた育苗苗を初夏どり栽培では 3 月中旬～4 月下旬植付け、5 月上旬～6 月下旬収穫、秋冬どり栽培では 8 月上旬～10 月上旬植付け、9 月下旬～3 月下旬収穫の作型を主にブロッコリー栽培が行われている。植付け前のトレイ灌注処理による省力防除のため、クロラントラニリプロール 5.0 %水和剤（以下A剤と略記）、クロラントラニリプロール 8.7 % +チアメトキサム 17.5 %水和剤（B剤）、およびジノテフラン 20 %水溶剤（C剤）の 3 薬剤について 2008～2010 年、作型別に生産圃場において灌注処理だけを行い、実用的な防除基準作成のため評価した。

**初夏どり栽培** 2010 年 4 月 25 日植付け試験では、6 月上旬からコナガ、5 月中旬からアブラムシ類が多発した。その他アオムシ、ウワバ類、タネバエの寄生がみられた。コナガに対し A 剤 50 倍、100 倍、200 倍液、および B 剤 100 倍、200 倍、300 倍液は約 6 週間、C 剤 100 倍液は約 5 週間の幼虫寄生密度抑制の残効がみられた。A 剤、B 剤の各処理濃度による有意差は認められなかった。アブラムシ類に対して B 剤 100 倍、200 倍、300 倍液は約 7 週間、C 剤 100 倍液は約 5 週間の幼虫寄生密度抑制の残効がみられた。また、B 剤ではタネバエによる被害がみられなかった。2008 年 4 月 28 日植付け試験では、コナガが多発し 6 月中旬収穫花蕾に被害がみられた。その他アオムシ、ヨトウムシ、ウワバ類の寄生が収穫期の茎葉にみられる条件下で A 剤 100 倍液は約 4 週間、C 剤 100 倍液は約 3 週間の幼虫寄生密度抑制の残効がみられた。

**秋冬どり栽培** 2009 年 8 月 18 日植付け試験では、9 月下旬からコナガ、9 月上旬からアブラムシ類、10 月上旬からハスモンヨトウがそれぞれ多発した。その他、アオムシ、ヨトウムシ、オオタバコガ、ウワバ類の寄生がみられた。A 剤 100 倍液、B 剤 100 倍、200 倍、300 倍液、C 剤 100 倍液は約 5 週間の幼虫寄生密度抑制の残効がみられた。B 剤の各処理濃度による有意差は認められなかった。10 月下旬から収穫した花蕾のコナガ被害は無処理区で 30.0 %、A 剤は 12.2 %、B 剤 4.4～8.3 %、C 剤 25.8 %、アブラムシ類による被害は無処理区で 3.3 %、A 剤は 2.2 %、B 剤 0.0 %、C 剤 0.0 %であった。高温期の植付けでは薬害が発生し、B 剤 100 倍、200 倍液および C 剤 100 倍液では葉縁白化、株枯死の薬害がみられ、B 剤 100 倍液および C 剤 100 倍液では収穫遅延も認められた。2008 年 9 月 2 日植付け試験では、コナガ、ハスモンヨトウが優先種で 10 月下旬の収穫期には中発生となった。その他アオムシ、ヨトウムシ、オオタバコガ、ウワバ類の寄生もみられた。A 剤 50 倍、100 倍、200 倍液は約 6 週間、C 剤 100 倍液は約 3 週間の幼虫寄生密度抑制の残効がみられた。A 剤の各処理濃度による有意差は認められなかった。

**防除基準** トレイ灌注処理は初夏どり栽培では 4 月中～下旬植付け作型に B 剤 300 倍液、秋冬どり栽培では 8 月上旬～9 月上旬植付け作型に A 剤 200 倍液、9 月中旬～10 月上旬植付け作型には、B 剤 300 倍液を使用する基準を提示している。安定した省力防除のため、今後生産地の広範囲な連年使用による害虫発生動向の推移を観察する必要がある。